(5)　学校行事・特別活動等における校訓に基づく道徳教育の配慮事項の例

活動名・分野・目的等	活動の様子	配慮事項
球技大会 ○競技を通して、礼儀、友情、遵法精神、公正、集団生活の充実、感動などの心を育む。		○生徒主体の運営とし、ルール遵守、助け合い、協力して競技運営させる。
一日体験学習会 ○学校紹介をすることで、自主、創造、思いやり、礼儀、郷土愛、勤労などの心を育む。		○自主性、創造性、積極性を意識して取り組ませる。
交通安全教室 ○交通ルールや事故の危険性を学ぶことで、遵法精神や生命尊重などの心を育む。		○ルールを遵守することや公共マナーの大切さを意識して取り組ませる。
マラソン大会 ○競技を通して、自律、向上心、克己と強い意志、友情、感動などの心を育む。		○克己心、向上心、責任感を意識して取り組ませる。
文化祭 ○企画や準備、発表を通して、自由と責任、向上心、創造、公共などの心を育む。		○向上心や克己心、仲間との協力や責任感などを意識しながら取り組ませる。
国際交流 ○外国の高校生との交流を通して、思いやり、相互理解、国際理解などの心を育む。		○外国文化の理解や日本文化の理解、積極性を意識して取り組ませる。

(6)　考察

生徒が道徳的な目標を持って特別活動（生徒会、ＨＲ、学校行事）に取り組むことにより、生徒自身の道徳的意識が向上することが確認できた。また、これらの取組をとおして「信頼される社会人」像を明確化させ、これに近づこうとする意識を持たせることにより、これからの在り方、生き方を考えさせる方向付けができた。

６　研究の成果及び課題

(1)　研究の成果

職員は、校内研修や講演会を通して高校における道徳教育の在り方を学び、授業だけでなく特別活動や課外活動などあらゆる場面において、道徳教育と関連づけて指導する必要性と効果を認識し、本校の道徳教育の在り方が明確化された。

また、生徒は道徳的目標を持って学校行事に取り組んだことにより、向上心や社会性、自律性が高まり、各自の持つ「信頼される社会人として活躍する力」の育成に繋がることを意識することができた。

(2)　今後の課題

今年度は、特に特別活動について実践研究を進めたが、今後は総合学科高校としての基幹である「産業社会と人間」をはじめとした各教科の授業についても、どのように道徳教育を推進するべきかについて、研究を進めると同時に推進する道徳教育の効果の測定と評価についても研究を深める必要がある。

７　参照できるホームページ

http://www. seisui-hs. gsn. ed. jp/　　（渋川青翠高等学校）

○事業の概要（藤岡市教育委員会の取組）

１　道徳教育における小中一貫教育推進体制づくり

○東中校区の小学校３校、中学校１校の児童生徒の課題を、教職員の意見や保護者・地域へのアンケート調査から把握し、東中校区の道徳教育における重点項目を設定した。
○４校の共通の取組（学年ブロックによる授業づくり、発問の工夫、道徳ファイルや道徳ノートによる児童の言葉の蓄積、家庭との連携）を決定し、９年間の学びのつながりのある学習指導の基盤を整えた。

２　実践

○４校の共通の取組を基盤とし、授業改善の視点に学びのつながりや発達段階に応じた指導の工夫を掲げて、授業実践を行った。
○「私たちの道徳」や「ぐんまの道徳」を活用した授業実践を行った。
○児童生徒の道徳性の実践の場としての児童会・生徒会活動や学校行事等を充実させた。

３　教職員の資質の向上

○学びのつながりを意識した道徳の授業づくりを意識するとともに、「学習指導案の作成→プレ授業→改善→代表授業→改善→検証授業」というサイクルのもと、学校を超えた学年ブロックを中心として協働による授業改善を図った。
○道徳の授業づくりにかかる研修会、講演会を実施し、道徳教育に係る意識や指導技術の向上を図った。

４　地域・家庭との連携

○道徳ノートや「私たちの道徳」の家庭への持ち帰りや学級通信・Web ページによる授業の様子の発信、学校評議員や保護者の授業参観等を通して、地域や家庭の意見や感想をうかがう機会を設けた。
○東中校区の道徳教育の取組をリーフレット「東中校区の道徳教育」にまとめて発信し、地域・家庭と連携した道徳教育の推進を図った。
○「いじめ防止に係る啓発リーフレット」を配布し、地域・家庭・学校で連携しながら、いじめを生まない基盤づくりを進めた。

５　事業の成果

○東中校区全体で内容項目を「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」に重点化したことで、日々の道徳教育の指導のポイントが明確になり、小中９年間を見通した道徳教育推進体制の基盤が整った。
○道徳の時間の指導に対する教員の意識が高まり、児童生徒の実態に応じた発問の工夫や表現活動の工夫等、学年内の連携を図るとともに、学びのつながりを考えた積極的な実践が行われた。
○地域や家庭に道徳の指導の様子を発信したり、授業公開をしたりしたことで、道徳の指導に対する意見や感想が寄せられ、道徳教育の充実や推進につなげることができた。

藤岡市教育委員会の事業内容

１　市の概要

教育委員会名	所在地	電話番号	学校数
ふじおかしきょういくいいんかい 藤岡市教育委員会	藤岡市藤岡１４８５	0274－50－8212	小学校１１校 中学校　５校

２　事業の趣旨・目標

「道徳教育における小中一貫教育の推進」

本事業は、本市で取り組んでいる小中一貫教育の一環として、小中９年間で目指す子ども像の育成に向け、児童生徒の発達段階や学びのつながりを踏まえた道徳教育の推進を図ったものである。

具体的には、本市にある５つの中学校区の中から、東中校区（藤岡第一小学校、美九里東小学校、美九里西小学校、東中学校）を本事業の指定校区とし、協働による授業づくりや合同研修会、家庭や地域との連携を通して、道徳教育を通した小中一貫教育推進体制を整え、教員の指導力向上及び家庭や地域の道徳教育に対する意識の高揚を図り、東中校区が９年間で目指す「広い心、頑健な体、信頼できる学力をもった子ども」の育成につなげていくこととした。

３　これまでの取組と課題

本市では、授業を中心とした教育における継続性・安定性の保障を目指し、平成２６年度から小中一貫教育に取り組んでいる。具体的には、小野小学校・小野中学校を先行実施校とし、小中９年間で目指す子どもの姿を明らかにするとともに、理科を中心とした９年間を見通したカリキュラムづくりを進めてきた。その成果や課題をもとに、今年度からは全校区で小中一貫教育を推進し、学びのつながりと生徒指導の継続に視点を置いた実践が行われている。

そこで、心の教育の中核を担う道徳教育においても、これまでの各校での道徳教育をさらに効率的・効果的に進めるために、これまでの取組を見直し、児童生徒の発達段階や学びのつながりに応じた道徳教育カリキュラムへと改善していくとともに、教師一人ひとりの指導力の向上を図ること、家庭や地域と連携した道徳教育を進めていくことが課題であると考えた。

４　東中校区における小中一貫教育の取組

(1) 道徳教育における小中一貫教育推進体制づくり

①　重点項目の設定

東中校区の児童生徒の道徳性に係る課題を把握するために、教職員の意見を集約するとともに、保護者や地域の方を対象にアンケート調査を実施した。調査結果をもとに、東中校区が９年間の教育活動で目指す子ども像である「広い心、頑健な体、信頼できる学力をもった子ども」に迫るための課題は何か、保護者や地域、教員の願いをもとに育てたい・伸ばしたい内容項目は何かといった観点で実態を分析し、東中校区の道徳教育における重点項目を「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」の３項目に設定した。そして、道徳の授業だけでなく、教育活動全体で重点項目を意識した道徳教育を展開することとした。

②　共通の取組の設定

東中校区４校で共通に取り組むことで、道徳教育における９年間の学びのつながりのある学習指導の基盤を整えたいと考え、校区４校の共通の取組を以下のように設定した。

・研究授業を学年ブロックで実施し、協働で授業づくりを進めていくこと
・発問を工夫した授業づくりをしていくこと
・道徳ファイルや道徳ノートなどを準備して授業で記述させた児童生徒の思いや考えを積み上げていくこと
・家庭との連携した取組を進めていくこと

(2)　実践

上記の共通の取組を基盤とし、授業改善の視点に学びのつながりや発達段階に応じた指導の工夫を掲げて授業実践を行った。また、道徳性の実践の場として意識して児童会・生徒会活動の充実を図った。以下に、道徳の授業実践（小学校６年、中学校３年）、東中校区スマイルハイタッチあいさつ運動の実践を紹介する。

＜小学校（６年）での道徳授業実践＞

①　主題名　目標に向かって　A－(5) 希望と勇気・努力と強い意志

②　資料名　「夢をつかまえよう！」（出典：東京書籍）

③　ねらい　目標に向かって、くじけずに努力しようとする心情を育てる。

④　「希望と勇気・努力（克己）と強い意志」についての学びのつながり

	ねらいとする価値	資料名
小学校低学年	自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。	小さなど力のつみかさね ～二宮金次郎～
小学校中学年	自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。	きっとできる
小学校高学年	より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。	ヘレンと共に～アニー・サリバン～夢をつかまえよう～
中学校	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	この人に学ぶ～松井秀喜～

⑤　指導の工夫

○　小学校３校（藤岡第一小・美九里東小・美九里西小）による検討会の実施及び３度のプレ授業後に授業を実践した。

○　日常に起こりそうな話の内容、児童が身近に感じる内容の資料を選定し、主人公の葛藤し変化していく気持ちを十分にとらえさせ、主人公の悩む気持ちに共感させることで自己を振り返り、これからの生活の意欲付けを図った。

○　高学年の児童は発言をためらう傾向にあるため、発言を引き出す工夫として、心情円盤で主人公の心情を表現することにより、それぞれの児童が考えの違いを理解させ、児童の多面的な意見を引き出し、話合いの活性化を図った。

心情円盤
「やりたい気持ち」をピンク、「やりたくない気持ち」を青で表現する。

⑥　学習の様子

主人公ゆうじのクラスでは、全国大会出場をめざしてドッジボールの練習をしてき

たが、ゆうじのミスを最後に予選で負けてしまう。もうドッジボールはしないと決めるが、次の大会での再チャレンジを投げかける先生の話を受け、このままでよいのか悩む…。

学校生活の中のできごとを題材とした資料である。主人公の葛藤する気持ちや目標に向かってくじけず努力してくことの大切さについて考えた。

＜主な発問と児童の発言＞　（◎：中心発問）

○　「もう一回出てみないか」と先生から言われた時のゆうじは、どのような気持ちなのでしょう。

（心情円盤で全部やりたくない気持ちを表現した児童の意見）

・もうドッジボールなんてやりたくない。
・僕のせいで負けたのだから、出たくない。
・もう二度と出たくない。こりごりだ。
・あの時のことを思い出すから、やりたくない。

（心情円盤で少しやりたい気持ちを表現した児童の意見）

・負けちゃったからやりたくない。でも勝ってみたい。
・同じ失敗をしたら嫌だ。このままでは納得できない。
・自分のせいで負けた。

◎　どうして「ぼくは、やりたい」とゆうじは言ったのでしょう。

・このままではちょっと嫌だから。（負けたままでは嫌だ）
・このまま終わったら、後悔するから。
・勝ちたいと思って臨んでいるから。
・ぼくのせいで負けてしまったのだから、この雰囲気を何とかしなければいけない。
・自分で決めた目標なのだから、あきらめてはだめだから。

＜児童の感想＞

・ぼくは水泳をやっているが、最初は嫌だと思っていた。でも、どんどんやりたくなって、いつの間にか夢になった。だけど、もう嫌だと思ったときは、今日のことを思い出し、あきらめないで夢に向かっていきたいと思った。
・私が今まで頑張ってきたことは、自主学習ノートです。毎日４～６ページやってきました。自分で立てた目標なのでこれからも頑張ろうと思いました。今、７冊目なので、２学期が終わるころには８冊目の半分くらいまでいけたらいいなと思いました。

⑦　成果と課題

○　小学校３校で協働して授業づくりに取り組み、プレ授業を行ったり、それをもとに授業検討を重ねたりすることで、中心発問や授業の流れが整理された。また、教師同士の道徳の授業に対する意識、力量を高めることができた。

○　心情円盤を使ったことで、児童の多様な考えを表現させることができ、さらに発言を引き出すことができた。

●　児童の発言をさらに多く引き出し、話し合いを深めるための心情円盤の有効な使い方を検討する。

＜中学校（３年）での道徳授業実践＞

①　主題名　自分を伸ばす　B－(6) 思いやり、感謝

②　資料名　「月明かりで見送った夜汽車」（出典：あかつき）

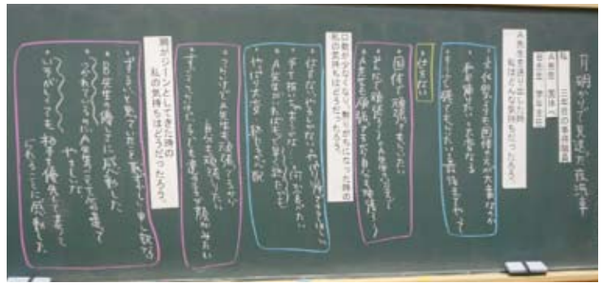
③　ねらい　自分が苦しい時にも、相手の立場に立ち、その人のことを気遣える温かい思いやりの心情を育てる。

④　「親切、思いやり（思いやり、感謝）」についての学びのつながり

	ねらいとする価値
小学校低学年	身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
小学校高学年	相手のことを思いやり、進んで親切にする。
小学校高学年	誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。
中学校１年生	周囲の人の善意に気付き、素直に感謝する気持ちをもつ。
中学校２年生	人間はかかわり合いの中で生きていることを自覚させ、真のやさしさについて考えを深める。
中学校３年生	温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し、感謝と思いやりの心をもつ。

⑤　指導の工夫

○　発問は、主人公の気持ちの変化が表れているところ３つに焦点化して、生徒が思考したり意見交換したりする時間を十分確保し、主題の深まりに段階的に迫れるようにする。



○　机間指導で生徒１人１人の考えを把握し、意図的指名によって同じ内容の考えを続けて発表できるようにする（類型化）。その際、意図的指名を行い、価値の高まりが明らかになるようにする。類型化した価値については、色チョークで色分けする。

○　事前のアンケートの「思いやり」と学習後の「思いやり」を比較させ、自分のこととして考えさせるようにしていく。

⑥　学習の様子

ある小学校が舞台。文化祭準備の途中で出かけたA先生の乗る夜汽車が学校の脇にさしかかる時刻、「Ａ先生に安心してもらうために電気を消す。」というＢ先生の放送が流れる。そして、真っ暗な校内からみんなが月明かりの中をゆく夜汽車を見送る。大変な時でも、人を思いやることのできるＢ先生のあたたかい気持ちが感じられる資料である。授業では、物語を三つの場面に分け、それぞれの場面の状況を確認しながら発問していく。

＜主な発問と生徒の発言＞
○　Ａ先生を送り出した時、私はどんな気持ちだったろう。
・文化祭より国体の方が大事なのか。
・Ａ先生も頑張っているのだから自分たちも頑張ろう。
○　口数が少なく黙りがちになった時の私の気持ちはどうだったろう。
・手を抜こうか。私も帰りたい。Ａ先生がいれば・・・。
・つらいけれど、大変だけれど、Ａ先生も頑張っているのだから・・・。
○　胸がジーンとしてきた時の私の気持ちはどうだったろう。
・ずるいと思ったことが恥ずかしい。Ｂ先生の優しさに感動。
・Ｂ先生も疲れているのに人を気遣って優しい。忙しくても相手を優先して考えられることに感動した。
＜生徒の感想＞
・誰かが言いだした小さなことでもみんなが協力すると大きな優しさになる。
・Ｂ先生はＡ先生を気遣うとともに周りの雰囲気や気持ちも明るくしてすごい。
・「自分だけが大変」「あの人はやらなくていいなあ」ではなく、「あの人の分も～」を考えたい。
・本当に自分が苦しくて辛いときに、いかに人に優しくできるかが、本当に思いやりのある人間かどうかだ。

⑦　成果と課題
○　生徒の考えを内容項目と照らし合わせて類型化したことがよかった。
○　学級通信を通して、保護者の感想も集まり、親子で考えるよい機会になった。
○　自分の進路について向き合わねばならないために、とかく自分本位になりがちな時期の生徒に、本当の「思いやり」を考えさせることができた。
●　今回の資料は葛藤が少ないために、主発問でじっくり考えさせる必要があった。
●　Ａ先生のことを「自己本位」にとらえてしまう主人公の姿を明確にしたかったが、「自分が頑張る」ことに価値がぶれてしまった。主発問が資料の価値と生徒を結びつける大切な役割を果たす。
●　主発問は、「価値を知る」「価値について考える」「新しい価値に気づく」ようにあるべき。

＜東中校区スマイルハイタッチあいさつ運動＞

藤岡市内では、平成２５年度の「いじめ問題解決に向けた子ども会議」で全校共通の取組として、「スマイルハイタッチあいさつ運動」と「ＨＡＰＰＹはぁとふるツリー運動」を実施することを決定し、２年間各学校で推進してきた。東中校区では、学期に一度、一週間程度、東中学校の生徒が校区内の小学校に出向いて、小学生と一緒に「スマイルハイタッチあいさつ運動」を行っている。また、地域やＰＴＡにも積極的に声をかけ、地域や家庭と連携した取組として充実させた。

(3) 教職員の資質の向上

研究授業は、学年ブロックを主体として教材研究を行い、「学習指導案の作成→プレ授業→改善→代表授業→改善→検証授業」というサイクルで授業改善を図った。特に、小学校においては、３校で協働して授業づくりを進めることで、より深

まりのある教材研究をすることができた。また、小中学校間で道徳の授業を参観し合い、研究授業の際には授業研究会にも参加して、授業を核とした積極的な交流が行われた。

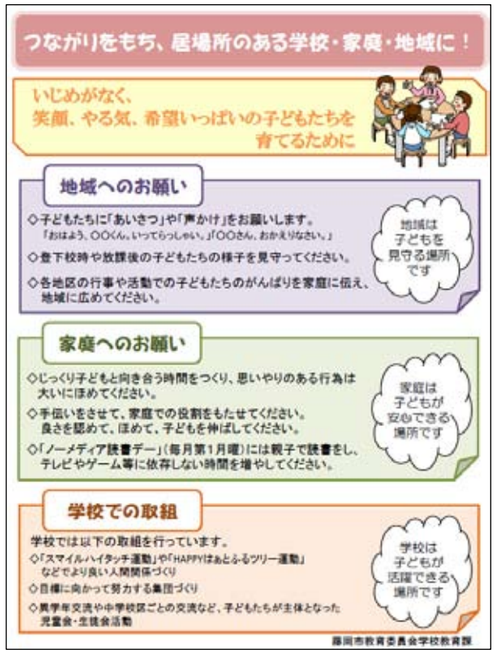
さらに、４校合同研修会を実施し、道徳教育の推進のあり方について共通理解したり、道徳の授業づくりについての講演会を開催したりして、教師の道徳教育に係る意識や指導技術の向上を図った。

(4)　地域・家庭との連携

授業の中で、自分の思いや考えを綴った「道徳ノート」や「私たちの道徳」を時々家庭に持ち帰らせ、家庭で話題にしてもらったり、保護者に感想を聞いたりした。また、授業の様子を学級通信やＷｅｂページを使って伝えたり、学校評議員や保護者の授業参観の際には、積極的に道徳の授業を公開したりして、地域の方々や保護者の道徳の授業に対する意見や感想をうかがう機会を設けた。

また、今年度の東中校区の道徳教育の取組を、リーフレット「東中校区の道徳教育」にまとめて地域や家庭、他校区の各学校に発信し、東中校区の取組を知ってもらった。

さらに、市教委で作成した「いじめ防止啓発リーフレット」を各家庭に配布し、目に付くところに掲示してもらった。学校での取組を知っていただくとともに、家庭や地域へのお願いもしていくことで、地域・家庭・学校の連携によるいじめを生まない基盤づくりを進めた。



いじめ防止啓発リーフレット

６　事業の成果及び課題

(1)　事業の成果

①　東中校区全体で道徳教育の重点項目を教員の意見や地域や家庭の願いをもとに、「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」に絞り込んだことで、日々の道徳教育の指導のポイントが明確になり、小中９年間を見通した道徳教育推進体制の基盤を整えることができた。

②　道徳の時間の指導に対する教員の意識が高まり、児童生徒の発達段階など、実態に応じた発問の工夫や表現活動の工夫等、学年内の連携を図るとともに、指導する内容項目の系統性に目を向け、「これまでの学び」「ここでの学び」「これからの学び」といった学びのつながりを考えた積極的な実践が行われた。特に、若手教員の授業力の向上が見られた。

③　地域や家庭に道徳の指導の様子を学級通信や Web ページで発信したり、保護者や学校評議員の授業参観等で授業公開をしたりしたことで、道徳の指導に対する意見や感想が寄せられ、道徳教育の充実や推進につなげることができた。

(2)　今後の課題

①　重点項目を中心に、小中で連携しながら９年間を見通した道徳カリキュラムを作成していく。

②　明確な指導観をもって授業をすることの大切さを実感したので、児童生徒観、価値観、資料観について深く考察し、葛藤させたり価値の大切さや意義に気づかせたりする発問のあり方について研究していく。

③　家庭や地域と連携した道徳教育を推進していくため、保護者や地域への啓発の方法について、さらに工夫・改善を図っていく。

７　参照できるホームページ

http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/（藤岡市教育委員会）

http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010001（藤岡第一小学校）

http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010006（美九里東小学校）

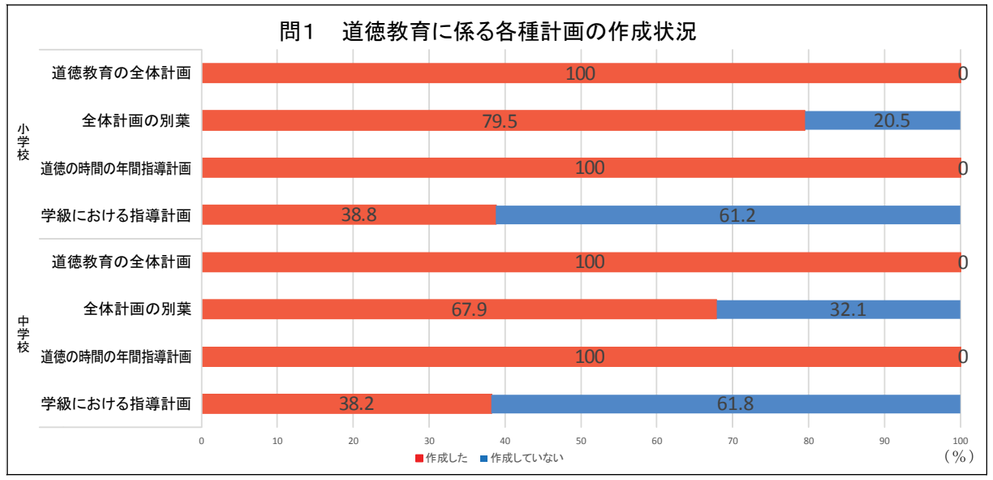
http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010007（美九里西小学校）

http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1020001（東中学校）

教育課程の編成・実施状況調査（道徳）の概要

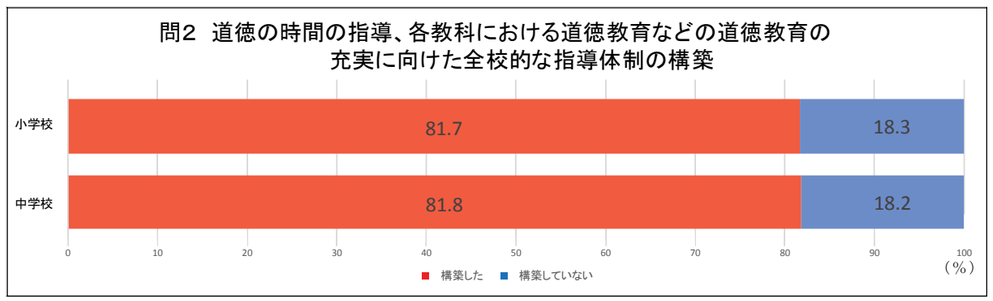
（平成２７年１０月実施）

○道徳教育に係る各種計画の作成状況



道徳教育の全体計画及び道徳の時間の年間指導計画は、全ての小・中学校で整備されている。各教科等における道徳教育に関わる指導の内容を整備したもの等、全体計画の別葉については、小学校79.5%、中学校67.9%と，前年度より整備が進んでいる。教科化に向けて、各教科等、教育活動全体を通じた道徳教育を充実させるためにも全ての学校での作成が望まれる。また、整備した諸計画の活用を図るとともに、継続的な見直しを行い、道徳の時間の特質を生かした意図的、発展的な指導ができるようにする必要がある。

○全校的な指導体制の構築



校内における道徳教育の推進の中核となる「道徳教育推進教師」等は、小・中学校ともに全ての学校で位置付けられているが、道徳教育の充実に向けた全校的な指導体制を構築した学校は、小学校81.7%、中学校81.8%であり、小・中ともに前年度より10ポイント以上向上している。

今後も校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に機能的な推進体制を整え、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を充実させていくことが望まれる。